

小松太郎 （1897-1971） ドイツ文學翻譯家。明治二十二年一月一日大阪生れ、昭和四十九年七月十三日歿（一九〇一七五）。慶應義塾大學豫科中退後ドイツ（ベルリン大學）留學。雑誌『二田文學』同人を経て、現代ドイツ文學の翻譯に從事。殊にケストナーの譯が知られた。

譯書に、『ヨゼフ・ロオト作『脱走者フランツ』（昭和五年十月）二冊天
入社「新世界叢書」）、エリツピ・ケストネル作『フアビヤン』（昭
和二十二年十一月）二十五日文藝春秋新社）、同『現代の寓話』（昭和
二十五年九月）二十日文藝春秋新社）、ヘルマン・ケステン作『ヨゼフ
の誕生』（昭和二十八年四月）二十日八興出版社）、エーリツピ・ケ
ストナー作『浮情的入生處方詩集』（昭和二十七年四月十日創元社）、
同『エミールと探偵たち』（昭和二十八年九月十五日岩波書店）『岩波
少年文庫』）、同『消え失せた密書』（昭和二十九年六月五日白水
社）、同『雪の中の三人男』（昭和二十九年七月十五日白水社）、
『ケステン作『恋は皮肉』（昭和三十一年二月）二十日大日本雄弁会云講談
社』等。

